



## 1 「幸水」の生育状況

- ・着果量：平年並み～やや多い園地が多い。
- ・肥大：満開61日後(6/14)の横径は、37.1mmと前年に比べ大きく、平年並み(前年比104%、平年比102%)。※R2年度から調査樹をすべて変更

## 2 病害虫防除

### <発生状況>

- ・黒星病：春型病斑は、5月中旬頃から確認。発生量は前年、平年に比べ多く、前回調査時よりも産地全体で増加。

※参考資料（黒星病の発生状況：6月14日時点）参照

- ・木材腐朽菌：萎縮症状がやや多い。
- ・赤星病：葉の病斑が多い。
- ・チャバネアオカメムシ：フェロモントラップへの誘殺は、発生が多かったR2に比べ少ないが、5月第1半月以降継続して誘殺されている。
- ・ハダニ類：未確認。

### <ポイント>

- ・（薬剤散布）散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒しで実施し、散布間隔がひらき薬剤の効果が切れる期間を作らない。また、薬剤の散布ムラが発生しやすい園地外周部は、往復走行で薬剤の付着量を高めるとともに、往復散布ができない四隅は補正散布を行う。
- ・（黒星病）「幸水」は6月下旬頃から果実が感染しやすい肥大最盛期を迎える。収穫期の果実病斑を少しでも減らすため、梅雨明けまで、春型病斑を摘み取り園地外で処分するとともに、発生状況（少発生、多発生）に応じて剤の変更や特別散布を実施する。
- ・（木材腐朽菌）なし樹にきのこ（子実体）の発生を確認した場合は、早めにきのこを除去して園地外で処分し、きのこからの胞子の飛散を防ぐとともに、腐朽部分は、削り取り、保護殺菌剤を塗布する。
- ・（赤星病）重要防除時期が過ぎているため、今後は定期防除で対応する。黒星病が発生している園地では、赤星病より黒星病の摘み取りを優先させる。

### < 薬剤防除 > 黒星病の発生が少ない園地

回数	散布時期 の目安	散布薬剤と希釈倍率	10a当たり 散布量	対象病害虫	実施日 (自己 記入)
10	6/27 ~29	<b>フロンサイド水和剤</b> 1,500倍 <b>ダニサラバフロアブル</b> 2,000倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 ハダニ類	
11	7/7 ~9	<b>アミスター10フロアブル</b> 1,000倍 <b>スミチオン水和剤40</b> 1,000倍 ※収穫21日前まで	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病、炭そ病 ハマキムシ類、シンクイムシ類、 カメムシ類	
12 ※	7/17 ~19	<b>カナメフロアブル</b> 4,000倍 <b>ノーマルト乳剤</b> 2,000倍	350ℓ	黒星病、赤星病、輪紋病 シンクイムシ類、ナシホソガ、ナ シチビガ	
13	7/27 ~29	<b>オーソサイド水和剤80</b> 1,000倍 <b>スタークル顆粒水溶剤</b> 2,000倍	350ℓ	黒星病、赤星病、輪紋病 シンクイムシ類、カメムシ類、ケ ムシ類、アブラムシ類	

※ オキシラン水和剤からの変更。

### < 薬剤防除 > 黒星病の発生が多い園地

回数	散布時期 の目安	散布薬剤と希釈倍率	10a当たり 散布量	対象病害虫	実施日 (自己 記入)
10	6/25 ~27	<b>フロンサイド水和剤</b> 1,500倍 <b>ダニサラバフロアブル</b> 2,000倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 ハダニ類	
11	7/3 ~5	<b>アミスター10フロアブル</b> 1,000倍 <b>スミチオン水和剤40</b> 1,000倍 ※収穫21日前まで	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病、炭そ病 ハマキムシ類、シンクイムシ類、 カメムシ類	
特 散 ※1	7/11 ~13	<b>オンリーワンフロアブル</b> 4,000倍 <b>ベルコートフロアブル</b> 1,500倍	350ℓ	黒星病、赤星病、輪紋病 黒星病、輪紋病	
12 ※2	7/19 ~21	<b>カナメフロアブル</b> 4,000倍 <b>ノーマルト乳剤</b> 2,000倍	350ℓ	黒星病、赤星病 シンクイムシ類、ナシホソガ、 ナシチビガ	
13	7/27 ~29	<b>オーソサイド水和剤80</b> 1,000倍 ※収穫3日前まで <b>スタークル顆粒水溶剤</b> 2,000倍 ※収穫前日まで	350ℓ	黒星病、赤星病、輪紋病 シンクイムシ類、カメムシ類、ケ ムシ類、アブラムシ類	

※1 今回の特散（赤字部分）は、R4防除暦に記載されていない特別散布となります。

※2 オキシラン水和剤からの変更。

・農薬散布にあたっては、①ラベルを必ず確認し、②周辺の作物や住宅への飛散に注意してください。

### 3. 今後の管理

#### <ポイント>

- (着果管理) 着果量が多く仕上げ摘果が遅れている園では、なるべく早めに仕上げ摘果を実施する。
- (新梢管理) 予備枝や陰芽から発生した新梢は、7月(新梢伸長停止後)に誘引し、花芽の着生を図る。ただし、着果不足等で新梢の伸長が旺盛な樹は、芽かきや夏季剪定を行い、受光環境を良好に保つ。
- (土壌水分管理) 排水不良による黄変落葉や裂果を防ぐため、明きよ等の排水路を点検し、排水口につながるように手直しをしておく。
- (土壌水分管理) 無降雨日が5日間続いた場合はかん水を実施する。特に高温・乾燥が続くような場合は根域まで浸透するよう十分に行う。
- (収穫準備) 今年の「幸水」の収穫開始は、8月11日頃と予想され、前年、平年並みと見込まれる。しかし、今後寡日照多雨となった場合は、果肉が先熟し、さらに早まる可能性もある。計画的に収穫、販売の準備を進める。

#### <お知らせ①>

- 下野方梨組合 畑まわり 6月22日 9:00~ 布本義弘園集合

#### <お知らせ②>

- 次号は、7月22日頃の発行を予定しています。

### 1 全園地の発生状況

- 15園地中、12園地で黒星病の発生を確認し、発病果そう率が11%を超える園地が約半分あり、うち6園地は20%を超えていました(図1)。

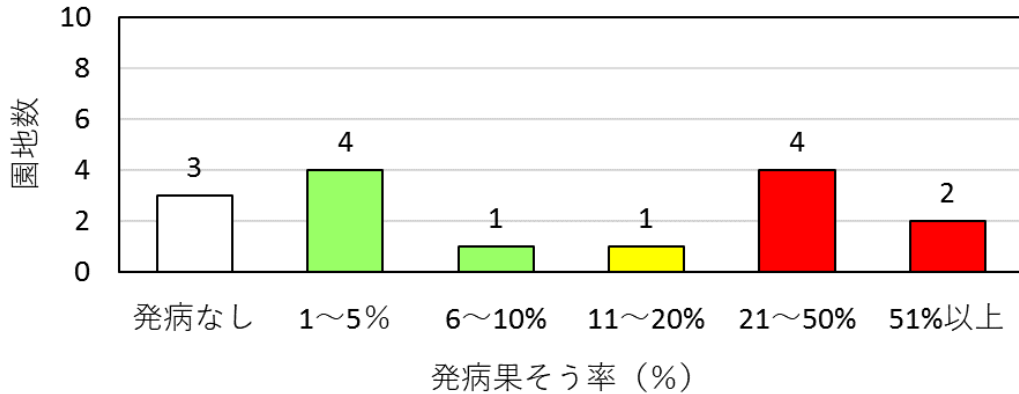


図1 全園地の発生状況

### 2 発病が確認できる5月中旬から収穫までの発病果そう率の推移

- 6月中旬の全園地を平均した発病果そう率は、20%と近年で最も高くなりました(図2)。

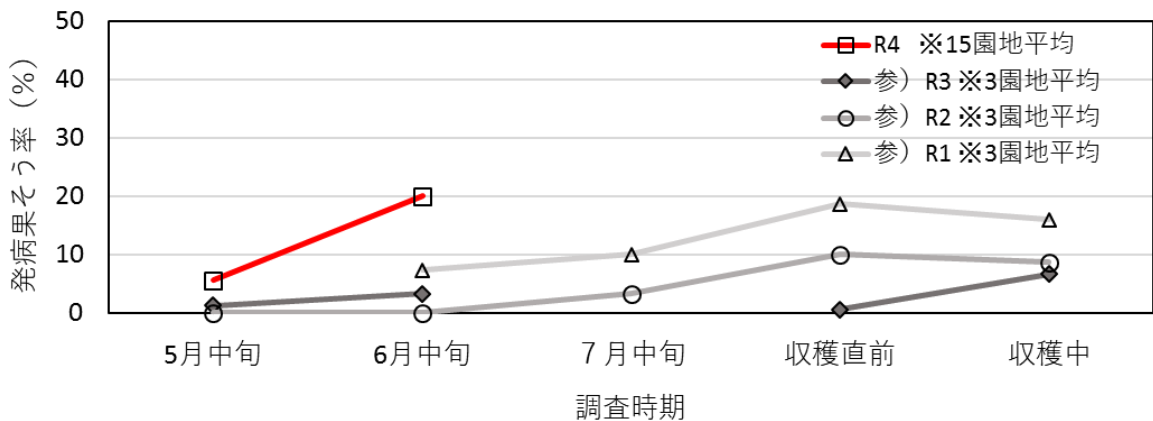


図2 発病が確認できる5月中旬から収穫までの発病果そう率の推移  
※R3 7月中旬、R1 5月中旬は未調査

### 3 発病部位

- 被害は果そう葉で多く見られ、一部は前回(5月)の調査では見られなかった新梢にも発生し、被害が拡大していました(図3)。

新梢 (葉、葉柄、茎), 1%

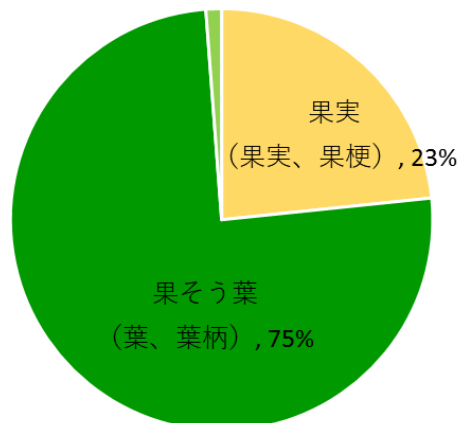


図3 発病部位